

## 第 246 回生理学東京談話会

会 期：平成 27 年 9 月 26 日（土）  
会 場：東邦大学医学部 3 号館 第 4 講義室  
当番幹事：東邦大学医学部生理学統合生理学分野・教授 赤羽悟美  
東邦大学医学部生理学細胞生理学分野・教授 高松 研

第 246 回生理学東京談話会は、東邦大学医学部生理学講座が当番幹事で、上記日程で開催いたしました。シンポジウム 5 演題、一般演題 13 題の発表があり、参加者は 60 名でした。

今回は「リアルタイムの分子生理学—基礎から臨床への架け橋—」と題したシンポジウムを企画し、「生きたまま分子機能を捉え・操る—オプトバイオアナリシス—」（小澤岳昌教授，東大），「リアルタイム分子生理学が解き明かす体内時計と適応防御システムの対話」（田丸輝也講師，東邦大），「体内時計をマウス脳や組織細胞で可視化すると見えてくる時計タンパク質の凄技」（深田吉孝教授，東大），「誤嚥性肺炎の病態生理とマルチモーダル介入」（海老原覚教授，東邦大），「痛みのネットワークを探る—光遺伝学から超高磁場 MRI 画像解析まで—」（加藤絵夫教授，慈恵医大）というタイトルで 5 名の先生方にご講演いただきました。一般演題では、さまざまな生体・組織における生理現象について、分子～個体レベルの研究結果が発表され、活発な質疑・討論が行われ、盛会裏に閉会しました。その後、評議員会において、次回の当番幹事を東京医科大学の小西真人教授、林由起子教授にお願いすることが諮られ、承認されました。

---

地方会抄録はウェブページ <http://physiology.jp/nisseishi/> に掲載させていただくことになりました。（Pt 2） p. 56～p. 60 をご覧ください。